

コンピュータ会計科目に関する一考察

荒 井 義 則

1. はじめに

現代の企業では、会計業務はコンピュータ化されているのが普通である。小企業の会計ソフトから大企業の巨大な統合化された会計情報システムまでその規模はさまざまであるが、コンピュータなしでは現代の会計業務は実行が難しい。電子申告・電子納税、「電子帳簿保存法」、「e-文書法」による帳簿・証憑書類の電子保存、電子マネー、株券の電子化、電子債権などは会計のさらなるコンピュータ化・ネットワーク化を推進する要因となっている。

このような状況にあたり、大学・短大の商学系・経営系・経済系の学部・学科では会計教育のコンピュータ化がはかられ、その中心科目の一つとして「コンピュータ会計(論)」、「会計情報システム(論)」といったコンピュータ会計科目を設置しているところが少なくない。

大学・短大で開講されている1年生用の簿記の入門的な科目では、その内容は簿記一巡の簡単な解説、期中取引の詳細、決算、精算表・財務諸表の作成と一定の型があり、日商簿記検定3級の内容と一致している場合が多い。しかしながら、「コンピュータ会計(論)」、「会計情報システム(論)」などのコンピュータ会計科目においては、必ずしも定まった一定の型というものとは存在しない。もちろん、大学・短大の授業科目は、高校・中学・小学校とは異なり、一定の型など必要とせず、担当教員の研究に基づく独自の授業を展開すればよいのであるが、各大学・短大で実施されているコンピュータ会計科目の内容を知ることとは今後のコンピュータ会計

教育にとって多少なりとも貢献するのではないかとと思われる。

本稿では、最初にインターネット上に公開されているコンピュータ会計科目のシラバスについて、その教育内容を調査・集計し、考察を加える。次に、日本商工会議所「電子会計実務検定」についてコンピュータ会計科目に関連して考察する。電子会計実務検定は日商簿記検定に比べ、歴史が浅く影響力も少ないが、今後有力な資格になる可能性を有しており、後述するようにコンピュータ会計科目の授業内容に影響を与え始めている。コンピュータ会計科目と電子会計実務検定との関係を考えてゆくことにする。

2. コンピュータ会計科目の授業内容の調査

ここでは、インターネット上に公開されているコンピュータ会計科目29科目(18大学)についての調査結果を集計する。調査した科目名は「コンピュータ会計(「コンピュータ会計論」も含む)」、「会計情報システム(「会計情報システム論」、「会計情報システム演習」も含む)」である。なお、同じ大学で「コンピュータ会計A」、「コンピュータ会計B」とあり、2科目でコンピュータ会計全体を扱っている場合でも2科目と計算している。「会計情報システム」についても同様である。また、一つの大学で「コンピュータ会計」、「会計情報システム」の両科目を開講している場合もあり(この場合も2科目と計算している)、これらの理由により、科目数と大学数が異なっている。

(1)「コンピュータ会計」の教育内容

「コンピュータ会計（「コンピュータ会計論」も含む）」は16科目（12大学）でその内容は以下のとおりである。

- ① エクセルによる販売・購買管理、資金計画、給与計算など 2科目（1大学）
- ② エクセルによる財務諸表作成、経営分析など 2科目（1大学）
- ③ 会計ソフトによる財務会計処理 7科目（6大学）
- ④ エクセル及び会計ソフトによる財務会計処理 1科目（1大学）
- ⑤ コンピュータ会計の講義のみ（実習なし） 1科目（1大学）
- ⑥ その他 3科目（2大学）

その他の3科目は「シラバスからは使用ソフトが分からない科目」が2科目（1大学）、「内容的にはコンピュータ会計というよりはパソコン演習に近い科目」が1科目（1大学）である。

(2)「会計情報システム」の教育内容

「会計情報システム（「会計情報システム論」、「会計情報システム演習」も含む）」は13科目（10大学）でその内容は以下のとおりである。

- ① エクセルによる財務諸表作成・経営分析 4科目（4大学）
- ② エクセルによる財務会計・管理会計（原価計算を含む）演習 3科目（2大学）
- ③ 会計ソフトによる会計処理 0
- ④ エクセルによる財務会計演習と会計ソフトの現状 1科目（1大学）
- ⑤ 会計情報システム論の講義（実習なし） 2科目（1大学）
- ⑥ 経営会計システムの講義

1科目（1大学）

⑦ COBOLによる財務会計演習

2科目（1大学）

(3) 検定を考慮した科目

「コンピュータ会計」では「電子会計実務検定」、「パソコン財務会計主任者試験」を考慮した教育内容の科目が16科目中3科目（3大学）ある。

- ① 「電子会計実務検定初級」、「パソコン財務会計主任者試験1級、2級」を考慮した教育内容 1科目（1大学）
- ② 「電子会計実務検定初級」を考慮した教育内容 2科目（2大学）

(4) 考察

「コンピュータ会計（「コンピュータ会計論」も含む）」が16科目（12大学）、「会計情報システム（「会計情報システム論」、「会計情報システム演習」も含む）」が13科目（10大学）と科目名としては2科目ともほぼ同程度に使われているが、内容的にはかなり差があることが分かる。「コンピュータ会計」では7科目（6大学）で会計ソフトの演習が実施されているのに対し、「会計情報システム」では会計ソフトのみを用いる科目は0である。一方、「会計情報システム」ではエクセルによる会計処理が7科目（6大学）であるのに対し、「コンピュータ会計」では4科目（2大学）である。したがって、「コンピュータ会計」では「会計ソフトの演習」が中心であり、「会計情報システム」では「エクセルによる会計処理」が中心であることが分かる。

また、「コンピュータ会計」と「会計情報システム」の合計29科目中講義科目は4科目のみで、他の25科目はコンピュータ実習が中心である。すなわち、これらの2科目はコンピュータ実習が中心となる科目であることが分かる。

さらに、検定（現在のところ会計ソフトが中心）についてみると、「コンピュータ会計」16科目（12大学）中3科目（3大学）が扱っており、会計ソフトを中心とする検定の影響がうかがえる。

以上の調査より、コンピュータ会計教育科目の授業内容はエクセルまたは会計ソフトを用いたコンピュータ実習が中心であり、「コンピュータ会計」では会計ソフトが、「会計情報システム」ではエクセルが主に使用され、会計ソフトの検定の影響も受けつつあるという結論が得られる。

3. 電子会計実務検定の概要

ここでは、コンピュータ会計教育に徐々に影響を与えつつある日本商工会議所「電子会計実務検定」とはどのようなものかを見てゆくことにする。¹⁾⁻⁶⁾

(1) 試験の目的¹⁾

企業、とくに中小企業における電子会計の実践およびこれに対応できる人材の育成に資するとともに、中小企業の会計指針の普及・定着を図ることを目的に創設された。

(2) 試験の方法¹⁾

インターネットを介して試験の実施から採点、合否判定までを行う「ネット試験」で実施される。全国の商工会議所ネット試験施行機関（各地商工会議所及び各地商工会議所が認定した試験会場）で受験する。

(3) 試験の級及び対象者

試験は初級・中級・上級の三つのレベルに分かれており、対象者は以下のとおりである。

①上級（試験時間：90分、問題数：2問、出題形式：自由記述問題1問、会計ソフト

とエクセルを使用する会計データ処理問題1問）⁷⁾

電子会計情報を活用して経営に携わる者、経営の助言をする者。

②中級（試験時間：60分、問題数：21問、出題形式：択一式、一部数値記入）⁸⁾

企業や公益法人などの会計実務及び財務責任者。

③初級（試験時間：40分、問題数：20問、出題形式：択一式、一部数値記入）⁹⁾

企業の経理担当者、NPO、公益法人などで会計実務に携わる者、および一般社会人、学生・生徒。

(4) 試験施行対象会計ソフト（2008年度）¹⁰⁾

- ①勘定奉行21Ver.IV（Ver.4.02）
- ②弥生会計08プロフェッショナルVer.14.0.1
または14.1.1または14.1.2
- ③会計王9
- ④PCA会計9システムB

(5) 出題範囲¹¹⁾

1) 上級

- ①電子会計情報の活用（利益計画、資金計画、予算管理、部門管理、プロジェクト管理等）
- ②会計ソフトの導入・運用
- ③電子会計データの電子保存と公開
- ④電子申告・納税システムの理解
- ⑤企業会計以外の会計システムの理解

2) 中級

- ①関連業務等からの業務データ等の活用
- ②電子会計情報の活用（決算書、資金繰り表等による収益、資金の状況の把握）
- ③電子会計データの保管、管理

3) 初級

- ①電子会計データの流れ
- ②電子会計情報の活用（各種電子帳簿書類の見方等）

4. コンピュータ会計教育科目と電子会計実務検定講座カリキュラム

(1) 初級カリキュラムとコンピュータ会計教育科目

日本商工会議所では公式ガイドブックを教材とした「電子会計実務検定初級講座」のカリキュラム（の一例）を作成し公開している。¹²⁾ カリキュラムには「（通常の）カリキュラム」と「速習カリキュラム」の2種類があり、両カリキュラムとも日商簿記検定3級程度の簿記の知識と基本的なパソコン操作能力を前提としている。「（通常の）カリキュラム」は「90分授業12回」で構成されており、大学の授業では「半期2単位」の授業に相当する。「速習カリキュラム」は「90分授業5回」で構成されており、大学の授業では「半期2単位のほぼ半分」の授業に相当する。

これらのカリキュラムは必ずしも大学や短大の授業を念頭に置いたものではないので、そのままでは大学や短大のコンピュータ会計教育に取り入れることは難しいと思われるが、各大学・短大の実状に合わせて多少の変更を加えればコンピュータ会計教育に取り入れることは十分可能である。通年4単位分の授業であれば、半期を「（通常の）カリキュラム」をもとにした会計ソフトの演習に使い、残りの半期をエクセルによる会計操作あるいは会計情報システム論の講義など独自の授業に用いればよい。また、半

期2単位分の授業であれば全期間を「（通常の）カリキュラム」をもとにした会計ソフトの演習にあてるかあるいは5コマ分を「速習カリキュラム」をもとにした会計ソフトの演習に使い、残りの期間をエクセルによる会計操作あるいは会計情報システム論の講義など独自の授業に用いればよい。これ以外にも、カリキュラムの一部を取り入れるなどいろいろな活用方法があると思われるが、これらのカリキュラムは単に受験用というだけでなく、大学や短大のコンピュータ会計教育を考える上で非常に有用な役割を果たす可能性を有している。

(2) 中級速習カリキュラムの作成

初級カリキュラムは作成・公開されているが、中級カリキュラムの作成・公開はまだなされていないので、ここでは公式ガイドブック中級を教材とする「中級速習カリキュラム」の一例を作成する。日商簿記検定2級程度の簿記の知識と電子会計実務検定初級程度の会計ソフトの操作能力を前提とする。「中級速習カリキュラム」は半期2単位の授業でも取り入れることができるように、「90分授業7回」で構成する。

第1講

第1章 電子会計情報の活用

1. 資産・負債・純資産(資本)の状況の把握
 - ①貸借対照表の構造
 - ②貸借対照表情報の活用
2. 損益の状況の把握
 - ①損益計算書の構造

第2講

- ②損益計算書情報の活用
3. 原価の状況の把握
 - ①製造原価報告書の構造

②損益分岐点の活用

第3講

4. 資金の状況の把握

①実績資金繰り表

②資金繰り表情報の活用

第4講

第2章 関連業務からの業務データの活用

1. 現金管理業務

①現金管理業務と会計処理

②電子会計における処理

2. 預金管理業務

①預金管理業務と会計処理

②電子会計における処理

3. 購買管理業務

①購買管理業務の流れ

②電子会計における処理

第5講

4. 販売管理業務

①販売管理業務の流れ

②電子会計における処理

5. 在庫管理業務

①在庫管理業務の流れ

②電子会計における処理

第6講

6. 給与計算業務

①給与計算業務の流れ

②電子会計における処理

第3章 電子会計データの保管・管理

1. 電子取引データの保管・管理

2. 原始証憑・出力帳簿書類の整理・保管

第7講

第4章 模擬試験問題の演習

5. おわりに

本稿では、インターネット上に公開されているコンピュータ会計科目のシラバスを調査し、どのような授業内容かを調べ、集計し考察を加えた。さらに日本商工会議所「電子会計実務検定」について大学・短大におけるコンピュータ会計教育の面からとらえなおし、「中級速習カリキュラム」を作成した。ただ、この調査・研究は予備的なものに過ぎず、本格的なコンピュータ会計教育の調査・研究が必要である。

注

1) 日本商工会議所「子電会計実務検定」ホームページ<http://www.kentei.ne.jp/kaikei/shokai.html>

2) 日本商工会議所編集[2008]『子電会計実務検定初級公式ガイドブック(弥生会計版)』日経BP社。

3) 日本商工会議所編集[2005]『子電会計実務検定初級公式ガイドブック(勘定奉行版)』日経BP社。

4) 日本商工会議所編集[2006]『子電会計実務検定初級公式ガイドブック(会計王版)』日経BP社。

5) 日本商工会議所編集[2006]『子電会計実務検定初級公式ガイドブック(PCA会計版)』TAC出版。

6) 日本商本商工会議所編集[2006]『子電会計実務検定中級公式ガイドブック』日経BP社。

7) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/jokyu.html>

8) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/chukyu.html>

9) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/syokyu.html>

10) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/soft.html>

11) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/hani.html>

12) <http://www.kentei.ne.jp/kaikei/time.html>